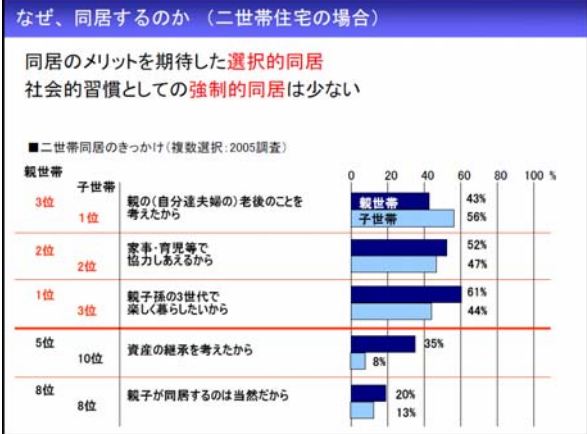


ハウスメーカーによるシニアのための新しい住まい・住まい方の提案（1）『同居の新しい形』

旭化成ホームズ（株）二世帯住宅研究所 主席研究員 松本吉彦

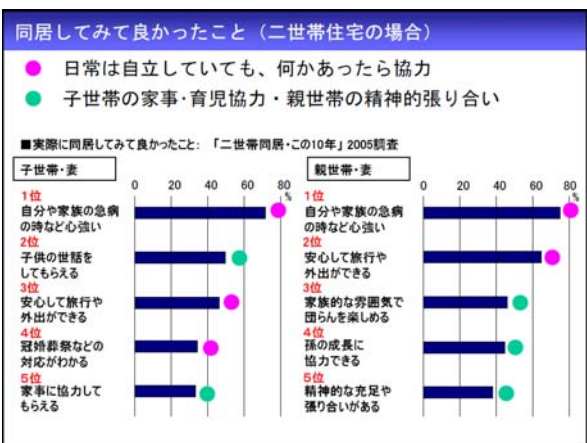
1. 親子同居への期待

- 現在の親子同居は、長寿化と家族の少人数化の中で、自立不安を抱えた家族の再結集という側面が強くなっています。
- 同居のメリットを期待し自ら選んだ選択的同居が多く、社会的習慣としての強制的同居ではないことが近年の傾向です。
- 超高齢の親の見守りや介護ステージへの対応は親子同居の中で必須のものとして期待されています。



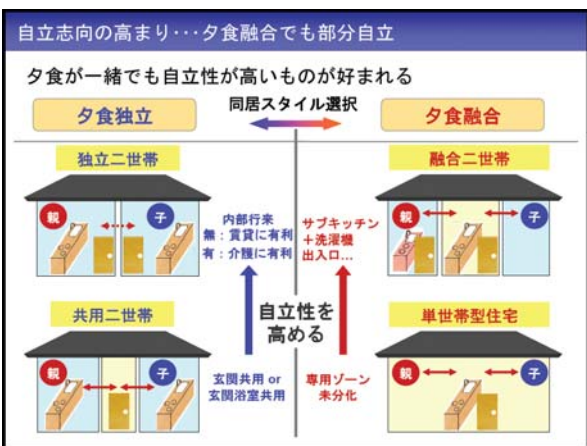
2. 実態調査に見る同居のメリット

- 独立性の高い二世帯住宅が求められています。
- 日常生活では独立していても何かあったら協力、というメリットが実感されています。
- 子供世帯への家事・育児の協力が、親世帯にとっては家族的な雰囲気を楽しめる、孫の育児に参加することで精神的な張り合いがあるという満足につながっています。
- このように子世帯、親世帯双方が親子同居のメリットを享受しています



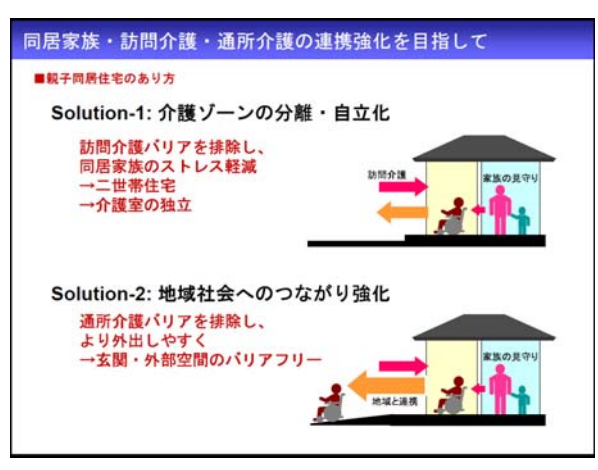
3. 親子同居住宅のあり方

- 同居のスタイルは夕食がキーになります。親子同居を成功させるには同居スタイルに合わせた家であることがポイントです。
- 夕食の独立・融合のそれぞれの同居スタイル内で独立性を高めた住宅の方が、評価が高いと言えます。
- 独立二世帯においては内部で行き来できるようにすると介護には有利です。
- 三世帯同居世帯には単独世帯に比べ訪問介護が少なく、通所介護が多い傾向があります。



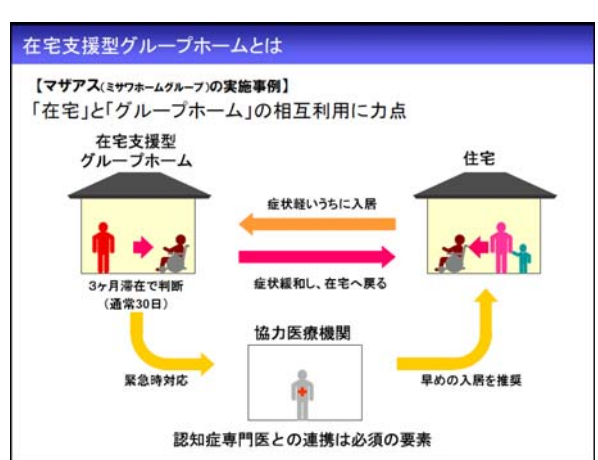
・以上のことからどのような住まい方をすればよいかが見えてまいります。

- ①介護ゾーンの分離化・自立化。二世帯化、またはトイレ・洗面台などの水周りをつける準備を施した、将来の独立した介護室を確保する。
- ②地域社会へのつながり強化。現在の高齢者対応の住宅性能表示は家の中での高齢者の動きやすさのみが基準であるが、外出のしやすさに関する配慮も重要視する。



4. 在宅支援型グループホーム

- ・住宅と地域のつながり強化から、地域にどういうものがあるかが大切になります。
- ・マザアスの在宅支援型グループホームは認知症の早期に入所していただき、三ヶ月ほどを目安にここで症状を緩和した後在宅に戻っていただくというものです。
- ・医療機関との協調を大変重視しておられます。
- ・施設調でない住宅らしいインテリアになっており、自宅との連続性が保たれております。



5. 同居支援に向けての要望

- ・税制上の優遇が小規模の住宅に集中しており、大規模であっても大家族が同居する二世帯住宅への同等のご配慮がいただけないか。
- ・高齢者の心身状態が同じレベルであっても、同居家族がいる場合には介護認定が低いものになっており、二世帯同居においても適切な訪問介護のサポートが受けられるようにすることも必要です。二世帯同居は高齢者の見守りには大変有利であり結果として介護のコスト上有利と考えられます。
- ・通所介護のバリアのない住宅づくりを促進していただきたい。

